

希少 シギ科

アカアシシギ

Tringa totanus ussuriensis (Buturlin)

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少 b 生息地が局限

【形態】 チドリ目シギ科。全長28cm。くちばしと足が赤い中型のシギの仲間で、冬羽は近縁のツルシギに似る。

【分布】 ユーラシア大陸の温帯を中心に広く繁殖し、日本では北海道東部の根室半島などの湿原で繁殖している。

【県内の分布、生息状況】 福島県内では相双地区の干潟、海岸近くの水田や湿地に、旅鳥として春・秋に渡来するが、あまり多くはない。

【生息に影響を与えている要因】 休耕田管理放棄 水田減少

【特記事項】 海岸近くの水田地帯は、春・秋に通過する多くのシギ・チドリ類の格好の餌場となっている。永続的な稲作は、渡り鳥を保護しながら人間の生活を維持することにつながっている。

希少 シギ科

写真ページ³⁴

ハウロクシギ

Numenius madagascariensis (Linnaeus)

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 大きく下方に湾曲した長い嘴を持つシギ類の中で最も大型。ダイシャクシギに似るが全体が一段と褐色味が強く、下腹部も淡褐色で白く見えない。雌雄同色。下背、腰、上尾筒は褐色地に黒色の斑がある。翼の下面はダイシャクシギより暗色に見え黒色横斑がある。

【分布】 シベリア東南部で局地的に繁殖し、日本には旅鳥として渡来する。

【県内の分布、生息状況】 本県での記録は相馬市松川浦での観察のみである。(1981年8月31日相馬市磯部、1993年10月10日相馬市岩ノ子、1999年9月30日 相馬市柏崎日下)

【生息に影響を与えている要因】 海岸開発

【特記事項】 海岸の広い干潟や干拓地に生息し、カニ類などを餌とするので、広い干潟の保全が望ましい。

希少 シギ科

写真ページ³⁴

セイタカシギ

Himantopus himantopus himantopus (Linnaeus)

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 名前のとおり背が高く、ピンクの足は非常に長い。雄の夏羽では頭上から後頸は黒く、体の上面は緑色光沢のある黒で、残りは白い。まっすぐで黒い嘴は長い。雌は背や翼に褐色味があり、頭部は白い。近年までのガイドブックには国内の繁殖例の記載はなく、非常にまれな旅鳥または迷鳥と書かれてある。「ケツ、ピューイツ、ピューイツ」と鳴く。

【分布】 東京湾周辺や愛知県で繁殖し、他では旅鳥。ユーラシア中部・アフリカ・インド・東南アジアその他で繁殖。

【県内の分布、生息状況】 本県における確認報告は非常に少ない。1980年から85年にかけていわき市海岸で数例、1994年5月、郡山市。1999年4月相馬市。同年6月矢吹町での確認例のみである。

【特記事項】 世界各地で繁殖しているが、日本への渡来数は極端に少ない。なぜ東京湾と愛知だけで繁殖するのか、環境の与える影響については不明である。

希少 キツツキ科

写真ページ³⁴

オオアカゲラ

Dendrocopos leucotos stejnegeri (Kuroda)

【選定根拠】 a どの生息地においても低密度で希少

【形態】 アカゲラより少し大きい。背と中央尾羽は黒く、外側尾羽は白地に黒い縦斑がある。腰は白い。翼は黒色で白色の横斑がある。体の下面は淡黄褐色で脇には黒い縦斑がある。下腹から下尾筒は桃紅色。雄は頭頂から後頭まで赤いが、雌は黒色。アカゲラは背に目立つ逆八字型の白斑があり、脇の黒い縦斑はない。「キョツ、キョツ、キョツ・・・」という声はアカゲラより力強いが区別は困難。

【分布】 ユーラシア大陸の中緯度地帯に分布。日本では奄美大島から北海道までの山地に留鳥として生息する。

【県内の分布、生息状況】 県内では中通り(奥羽山系)や会津地方の山帯から亜高山帯の森林に生息するが、個体数はアカゲラより非常に少ない。原生林や自然木の多い森林にすみ、造林地にはまれ。

【生息に影響を与えている要因】 森林伐採